

第5回生物情報ネットワーク研究会

第5回研究会「ネットワーク解析関連商用ソフトウェアの現状と展望」は、2005年2月23日に東京大学医科学研究所第一講堂において開催された。開催前に堀本が5分ほど開催の趣旨を簡単に説明した後、予定通り午前10時より、10名(10社)の方の御講演いただき、堀本(主査、東京大学)のまとめをもって、予定より少し遅れて午後6時に無事終了した。講演者及び講演タイトルは以下の通りである。

三井 重之(三菱スペースソフトウェア株)

「遺伝子発現相互作用推定プログラム『Minos』(ミノス)」

瀧澤 文秀(インテック・ウェブ・アンド・ゲム・インフォマティクス株式会社)

「遺伝解析機能に特化した統計解析ソフトウェア(Helix Tree)」

斉藤 秀(インフォコム株式会社)

「多変量解析手法 Graphical Gaussian Modeling と階層的クラスタリング とを組み合わせた新世代関連ネットワーク推定システム『Auto Net Finder』」

細川 幸三(株菱化システム)

「統合プラットフォームによるバイオインフォマティクス」

高橋 順子(三井情報開発株)

「VoyaGene ~ 遺伝子ネットワーク同定支援システム ~ 」

藤崎 綾子(日立ソフトウェアエンジニアリング株)

「発現統計解析ソフトウェア avadis を用いたゲノミクスデータマイニングの手法」

Adesh Kaul (GeneData 社)

「Genedata's Integrated Computational Platform for Systems Biology」

高巢 康秀(富士通株式会社IT 事業開発部)

「BioMed CAChe を用いたタンパク解析」

仁村 幹彦(ジーンフロンティア株)

「高密度オリゴマイクロアレイを用いた遺伝子発現解析」

麻生川 稔(日本電気株式会社)

「バイオ文献データベース(Biocompass)と遺伝子ネットワーク推定支援システム(KAREIDMAP)」

堀本 勝久(東京大学医科学研究所)

「おわりに」

第5回研究会は、ネットワーク関連の商用ソフトウェアを販売している企業の担当者の方々に集まっていただき、販売されているソフトウェアの解説をお願いした。学術関連の学会において、企業ブースが必ず設けられているように、アカデミーと企業の間には相互

関係にあります。特に、バイオインフォマティクスにおいて、実験支援の側面があり、支援においてアカデミーがすべき点と企業がすべき点の明確な区別すべきと考えます。そこで、ネットワーク関連商用ソフトウェアを販売している企業方に集まっていただき、どのようなソフトウェアが販売されているか、またどのようなソフトウェアの需要があるか、わかり易く解説をしていただいた。

講演形式に不慣れなせいもあって企業の方からの講演後の質問はそれ程多くは無かったが、休憩時間などを利用して、参加企業間の連絡や議論は盛んになされたようである。また、少人数ではあったがアカデミーと企業の実験系研究者からは、熱心な質問があった。

記名していただいた参加者は、総数46名で、そのうち、大学関係者は5名、企業関係者は41名であった。大学関係者が少なく残念であった。会場でのアンケート調査の結果も、概ね「有意義」で「よく理解できた」と好評だった。特に、毎年このように関連企業が一同に会して解析ソフトウェアを解説する研究会の開催を望む声が多かった。

参加者総数 46名 (内、企業関係者41名、大学関係者5名)

参加費収入 ¥43,000.-

支出 ¥2,968.- (飲み物)

¥5,250.- (広告料)

堀本勝久 (東京大学)

麓雅樹 (ノーザンサイエンスコンサルティング)

注) アンケート結果の集計データにつきましては、

<http://www.hgc.ims.u-tokyo.ac.jp/~masumi/NW/report.htm> をご覧ください。